

平成16年度の実績

ベルマーク教育助成財団の平成16年4月1日から平成17年3月31日までの第15期初年度の実績は次の通りです。

(1) 参加団体の集票点数

平成16年4月から平成17年3月までの1年間の集票点数は5億1839万6936点で計画点数を約1200万点下回りました。有力協賛会社の脱退によるものです。運動開始以来の累計は216億4684万余点になります。

(2) 設備購入金額

ベルマーク資金で学校がこの1年間に設備品を購入した金額は6億185万3785円でした。累計は199億4385万6435円になります。

(3) 参加PTA数の変動

この1年間に参加PTAは92校増え、平成17年3月末現在、2万8114校・園に達しています。世帯数では、約911万世帯になります。参加児童・生徒数は約1031万人です。なお、参加幼稚園・保育園は5183園です。

年度末の学校種別（幼稚園を除く）の参加数、参加率と増加数は次の通りです。

	(参加数)	(全国総数)	(参加率)	(増加数)
小学校	15,016	23,420	64.1%	48
中学校	6,729	11,102	60.6%	14
高校	1,186	5,429	21.8%	7

(4) 教育助成事業

平成16年度は、次のような設備品などを、国内と海外の援助対象に贈りました。（援助金額の1万円未満は四捨五入）

[国内援助]

へき地学校＝100校に視聴覚備品やスポーツ用具、少年少女向け年鑑を贈りました。都道府県教育委員会に援助対象校の選定を依頼し、財団から対象校に贈呈品リストを示して、希望の教材備品を選んでもらいました。

このほか、教育援助（ソフト援助）として15校を対象に一輪車の一流選手による講習会を実施しました。また、15校を対象に理科の実験教室を開催しました。児童劇団「東少」による演劇公演「ベルマーク劇場」は全国5カ所で開催しました。平成14年度にスタートした「走り方教室」は新潟、沖縄など4カ所で、イラストレーターによる絵画教室（お絵かき体験塾）は5校を対象に、それぞれ実施しまし

た。

養護学校＝25校に希望する教材備品類を贈りました。

盲学校＝16校にカラー拡大読書器を贈りました。

ろう学校＝16校に教材提示装置を贈りました。

病院内学級＝8校の病院内学級に対してパソコンの自学・自習システムを贈りました。

[海外援助]

(1) 日本人学校

15の日本人学校・補習授業校に希望の教材備品を贈りました。

(2) 発展途上国援助事業（括弧内は実施団体）

アフガニスタン寺子屋教育（日本ユネスコ協会連盟）	300万円
ザンビア衛生・健康教育支援（家族計画国際協力財団）	200万円
ラオス・カンボジアに絵本を届ける事業（シャンティ国際ボランティア会）	250万円
カンボジア教育整備事業（日本ユニセフ協会）	100万円
ラオスの学校に図書室を作る事業（ラオスの子どもに絵本を送る会）	100万円
フィリピン「子供の森」計画事業支援（オイスカ）	200万円
東チモール保健教育支援（シェア国際保健協力市民の会）	200万円

[友愛援助]

平成15年度に呼びかけた第6回友愛援助に対して193校から485万円の拠出の申し出があり、これに財団の資金を加え総額900万円の事業費で、以下の5事業を16年度の「友愛援助」として実施しました。

「アフガニスタン教育支援」「ザンビアの衛生・健康教育支援」「カンボジア教育支援」「ラオスの学校図書室整備」「フィリピンの子供の森計画」

[新潟県中越地震被災校に対する緊急友愛援助]

平成16年10月に発生した新潟県中越地震で被災した学校に対する緊急友愛援助の呼びかけに、16年度末までに1120校から3213万3413円の拠出申し出がありました。この資金に、協賛・協力会社からの寄付、財団の予備費などを加えて、第1次援助として今年1月、被害の大きかった長岡市など5市町村の113校に2100万円相当の教育備品を贈りました。更に、この資金に財団の45周年記念事業費などを加え第2次援助を実施します。対象校は新規の73校も含め186校。この結果、援助総額は6200万円相当になります。

(5) 協賛・協力会社

平成16年6月にエプソン販売がプリンターのインクカートリッジ回収で参加、9月にジブラルタ生命保険が参加しました。また、17年4月1日付でキャノン販売とブルボンが協賛会社として参加しました。この結果、平成17年4月1日現在で協賛会社は59社、協力会社は23社です。

以上